



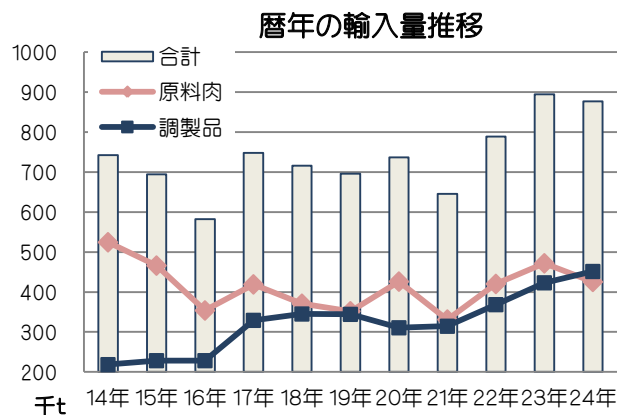
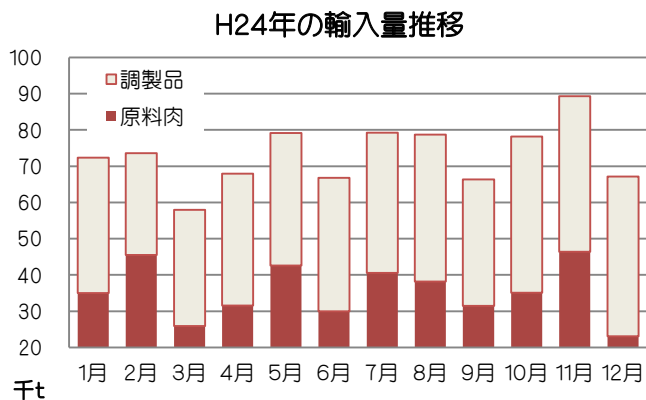
【ヘッドライン・ニュース】 24年の鶏肉合計輸入量 88万トン
調製品が原料肉を上回り、静かな浸食進む

財務省は30日、12月および昨年1年間の鶏肉輸入量を発表した。12月の原料肉輸入量は、日本食肉輸出入協会の事前予測よりも約4000トン少ない2万3097トンとなり、11月の大幅な伸びから一転、年間で最少の輸入量となった(左表参照)。

この結果、平成24年の輸入量累計は42万5330トンとなり、前年よりも約1割少ない輸入量に留まった。
 一方、鶏肉調製品の12月の輸入量は4万4029トンと11月を更に上回った。年間累計では

45万1384トンとなり、史上最多の輸入量に達した。さらに、調製品輸入が本格化した平成12年以降、初めて調製品が原料肉を上回る結果となり、市場の変化を表したものとなった(右表参照)。特に年後半からは月の輸入量が4万トンを超えることも多く、原料肉から調製品へと需要がシフトしていることが顕著となっている。

いまや日本中で、場所を選ばず手にすることができる最たる食品のひとつが鶏肉加工品になっている。から揚げや焼き鳥やチキンナゲットなど、もちろん人気メニューであることは間違いないが、流通側にとって価格が安く扱いやすい輸入原料に魅力があるのも確か。しかし胃袋はひとつであるため、外食や中食で輸入鶏肉を食べてしまえば、家庭での国産鶏肉消費が減るのは言わずもがなのこと。
 原料肉と調製品の合計輸入量では、前年をわずかに下回る87万6714トンだったものの、在庫量を比較すると前年より数万トン多い水準で推移しており、在庫圧力は強まっていると見られる。
 (3面に輸入統計を掲載)



2月4日～9日

概況 気象庁の3ヶ月予報では、2月～4月にかけて例年よりも気温の低い確率が、全国的に高くなっている。気温から見ればまだ寒くとも、立春が近づき鍋にも飽きが来るころ。量販店によっては、節分の恵方巻と一緒にから揚げを、と売り出しをかけたところもある。家庭でから揚げを作る場合、どう

せならまとまった量を揚げたいのが主婦(夫)の心。人が集まれば食も進む。消費拡大には生活スタイルの提案が必要とある経営者は言う。個食化が進む一方、ホームパーティや、モノからコトへの消費の移行が取り沙汰され、寒風ばかりが吹いているわけでもなさそうだ。

入荷動向 来週(4日～9日)の入荷は、通常の週とほぼ同じ見込み。増体や悪化や格外比率の上昇、もも肉の歩留り低下も聞かれるが、育成率は100に近い。販売状況の鈍さもあり、荷受筋の実感としては入荷は潤沢すぎるほど。

在庫動向 期末決算の重圧を感じる時期になったが、各荷受の在庫は7部位すべてで重くなっている。もも肉ではチルドと冷凍の相場の差が大きく、荷を処分しようとするれば傷口が開くため慎重にならざるを得ない。

販売動向 不需求期の2月を前に売れが伸び悩む時期。特売を増やす動きも見えるが、今ひとつインパクトに欠ける。半製品など加工度アップで消費者目線を捉えようとのチャレンジに期待も。

《関東の場合》もも肉では今週と“変わらず”とする回答が全体の6割弱を占めるものの、残りの4割強は“やや弱気配”と回答している。動きは鈍いものの、なんとか生で捌いているといった様子。むね肉では約7割が“変わらず”とし、弱気の影響は3割ほど。加工筋が様子見に入っている割には、他の部位より良いという声も。副産品は、“変わらず”を保っているところも減り、見る影もない。決算期が近づき、在庫圧迫感が懸念される。下手に動けないが、売上は落としたいくないとの構え。

《関西の場合》強気は影をひそめ、もも肉でも弱気の風が吹き始めてしまった。“やや弱気配”とする回答は約4割、“変わらず”とする回答も同じく4割程度。むね肉では6割弱が“変わらず”とし、強気の影響は3割弱に。関東では泣かず飛ばずの手羽もとも、売り方によっては強気が出ている。

《価格動向》副産品に続き正肉でも余剰感が高まり、価格を下げようとする動きが顕著になってきた。ただし、もも肉相場の安値は、年明けからボックス圏で推移しておりほとんど切り下がっていない。

《関東の場合》もも肉では約7割が“やや弱気配”と回答している。大手量販への納めに強い荷受を中心に弱気に傾いており、荷余り感が強まっている。むね肉では今週と“変わらず”とする回答が6割弱を占めるものの、“やや弱気配”との回答もある。先週から相場が下がるペースが早まっており、量を動かしたいとする思惑か。副産品では、ささみでつい約7割が弱気を出している。手羽もと・手羽さきも弱気に傾いており、特売効果は薄い。

《関西の場合》今週末までは場面が変わり、価格を下げて量を動かす局面にきたとの認識で一致している。もも肉ではすべての回答が“やや弱気配”とし、むね肉でも約4割が弱気の影響となっている。副産品では、手羽もと・手羽さきについては価格が落ち着いてきたものの、ささみ・手羽さき・きもは弱気配。

来週の気配値

もも肉	東京	618円(600~630円)
	大阪	611円(600~620円)
むね肉	東京	209円(200~220円)
	大阪	207円(200~220円)
と体特大高値	東京	288円
	大阪	275円

輸入鶏肉の卸売価格

《仲卸》	骨付きもも肉	US238円
	もも肉	BR299円
		US283円
	切り身	BR320円
《小卸》	骨付きもも肉	US430円
	もも肉	BR370円
	切り身	BR530円

2月の予想

2月の入荷(1月比)

もも肉	関東	99.5%	関西	101.3%
むね肉	関東	99.7%	関西	100.5%
と体	関東	100.5%	関西	100.3%

2月の相場

もも肉	東京	615円(600~635円)
	大阪	599円(590~620円)
むね肉	東京	207円(195~220円)
	大阪	204円(190~220円)
と体特大高値	東京	288円
	大阪	277円

《コメント》

- ▼ももの荷余り感が強まっている。
- ▼7部位特に動きは見られない。むね、ささみ、きも、手羽さきについて、特に動き悪い。
- ▼全体的に動き弱い。産地休みがあっても余剰感がある。
- ▼価格を下げて物量を動かさないと、荷物が回っていかない状況。
- ▼副産物、特に砂ぎもと手羽さきの動きが鈍い。

2012年12月の鶏肉輸入

鶏肉輸入12月分		12月	前年比	単価	前年比	1～12月累計	前年比
冷蔵	丸	2,955	127.0	1,794	101.5	11,884	195.8
	骨付きもも	0	-	-	-	0	-
	その他解体品	0	-	-	-	0	0.0
冷凍	丸	310,245	89.2	200	98.5	5,812,976	115.6
	骨付きもも	1,310,306	40.8	181	102.9	24,131,285	95.6
	中国	0	-	-	-	0	-
	タイ	0	-	-	-	0	-
	アメリカ	1,239,415	43.4	176	101.4	22,559,584	94.4
	ブラジル	0	0.0	-	-	459,518	83.7
	その他	70,891	60.5	262	96.2	1,112,183	138.8
	その他解体品	21,473,647	50.6	229	82.8	395,374,121	89.5
	中国	9,666	26.0	480	142.3	125,172	70.2
	タイ	0	-	-	-	0	-
	アメリカ	123,509	12.8	322	142.7	6,539,028	29.5
	ブラジル	20,990,050	52.1	226	81.5	381,840,546	93.6
	その他	350,422	32.1	353	126.3	6,869,375	60.4
合計		23,097,153	50.2	226	84.1	425,330,266	90.1

鶏肉調製品12月分		12月	前年比	単価	前年比	1～12月累計	前年比
冷凍	中国	21,314,318	103.2	384	102.3	224,577,504	104.5
	タイ	22,250,967	124.6	413	104.0	222,003,632	109.3
合計		44,029,555	112.3	398	103.3	451,384,130	106.8

食肉の安全性

鶏肉はAI・餌・産地への関心高く

(財)日本食肉消費総合センターが昨年10月に関東・近畿10都府県の20歳以上の主婦を中心に1238人からインターネット調査した「食肉に関する意識調査」の結果によると、鶏肉の安全性については「鳥インフルエンザ」に関するものが最も多く、また餌に対する関心や産地などへの関心も高い。外国産に対する安全性の不安も根強く、特に首都圏でそ

の傾向が強いとの結果がでている。

「非常に関心がある」の割合が高かったのは、「食肉の食中毒菌汚染」、「食肉の消費期限改ざん」、「食肉の産地偽装」などこれまで問題となって多く報道されたものがほとんど。「食肉の放射能汚染」も33.8%と高い関心が示されている。

■日本KFC(株)は、チキンフィレ(むね肉)2枚でケチャップライスなどをはさんだ商品を発売。

家計調査12月

価格下落続き、数量伸びず

総務省・統計局が発表した平成24年12月の家計調査によると、鶏肉の一人当たり▼支出金額は453.6円(前年比93.1%)、▼購入数量は487.6g(同96.1%)、▼100gあたりの平均価格は93.09円(同97.0%)となり、すべての項目で前年割れとなっている。購入頻度でも、前年を2.6%下回った。

H23年の12月には価格が下がったことで(前年比2.6%のマイナス)、購入数量が1割以上伸びていた。24年の前半も同様の傾向で、数量と金額が伸びていたが、後半からは価格の下落が続いたことで安さに慣れたためか、金額・数量でも下落が目立つようになった。(表参照)

一昨年に降との対比では、購入数量・支出額はプラスの傾向にあるものの、国内生産量と輸入量の増加から価格が下落傾向にあると思われる。

平成24年 鶏肉の家計調査(1人当たり)

	金額(円)		数量(g)		単価(円)	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
1月	370	109.4	408	111.3	90.8	98.3
2月	356	117.9	407	122.3	87.5	96.5
3月	358	108.0	413	111.1	86.7	97.2
4月	348	110.7	395	123.9	87.9	89.4
5月	341	101.4	386	109.9	88.3	92.3
6月	322	100.0	376	113.7	85.5	88.0
7月	301	94.6	353	102.9	85.3	92.1
8月	299	95.1	337	99.7	89.0	95.3
9月	320	92.7	386	103.5	82.9	89.6
10月	347	92.5	406	98.5	85.5	94.0
11月	350	93.6	412	101.9	85.0	91.9
12月	454	93.1	488	96.1	93.1	97.0